VMware vSphere 上での Unified Manager のインストール、アップグレード、および削除

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/install-vapp/concept_overview_of_deployment_process.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

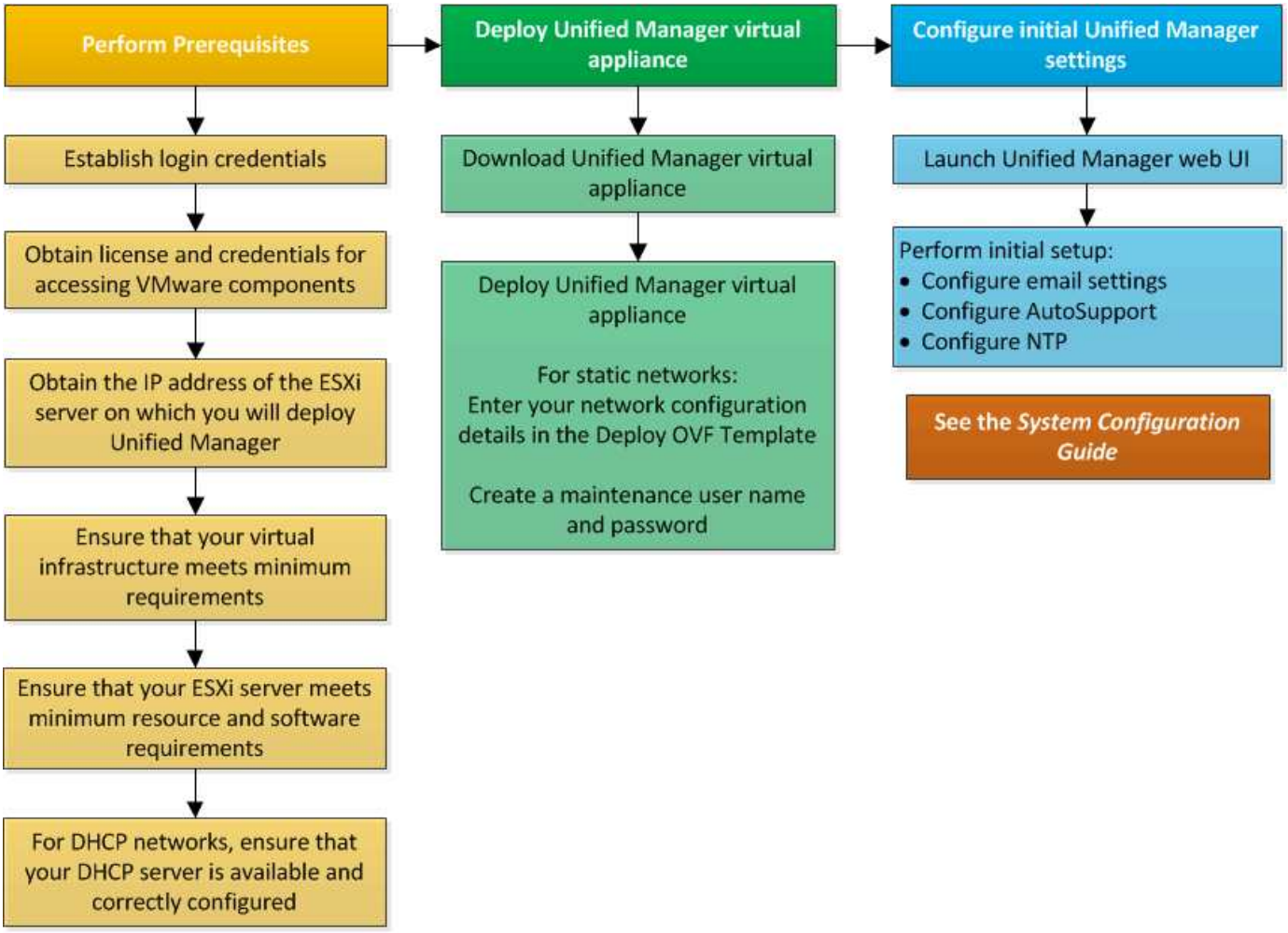
目次

VMware vSphere 上での Unified Manager のインストール、アップグレード、および削除 . . . 1
- Active IQ Unified Manager の導入プロセスについて学ぶ . . . 1
- Unified Manager仮想アプライアンスの展開ワークフロー . . . 1
  - Active IQ Unified Manager の導入 . . . 1
  - Active IQ Unified Manager インストールファイルのダウンロード . . . 2
  - Active IQ Unified Manager 仮想アプライアンスの導入 . . . 3
- Unified Manager仮想アプライアンスのアップグレードワークフロー . . . 5
  - Active IQ Unified Manager のアップグレード . . . 5
  - Active IQ Unified Manager のバージョンに対してサポートされているアップグレードパスを使用してください . . . 6
  - Active IQ Unified Manager アップグレードファイルのダウンロード . . . 6
  - Active IQ Unified Manager 仮想アプライアンスのアップグレード . . . 7
- Active IQ Unified Manager 仮想マシンを再起動する . . . 8
- Active IQ Unified Manager の削除 . . . 9

VMware vSphere 上での Unified Manager のインストール、アップグレード、および削除

Active IQ Unified Manager の導入プロセスについて学ぶ

導入ワークフローでは、Unified Managerを使用する前に実行する必要のあるタスクについて説明します。



Unified Manager仮想アプライアンスの展開ワークフロー

Active IQ Unified Manager の導入

Unified Managerの導入には、ソフトウェアのダウンロード、仮想アプライアンスの展開、メンテナンス用ユーザー名とパスワードの作成、およびWeb UIでの初期設定が含まれます。

開始する前に

- 導入のためのシステム要件を確認し、完了しておく必要があります。

"システム要件"を参照してください。

- 次の情報が揃っていることを確認します。
  - NetApp Support Site のログイン資格情報
  - VMware vCenter ServerおよびvSphere Web Clientにアクセスするためのクレデンシャル
  - Unified Manager仮想アプライアンスをデプロイするESXiサーバーのIPアドレス
  - データセンターの詳細（データストアのストレージ スペースやメモリの要件など）
  - IPv6アドレスを使用する予定がある場合は、ホスト上でIPv6を有効にする必要があります。

Unified Managerは、VMware ESXiサーバー上に仮想アプライアンスとしてデプロイできます。

メンテナンス コンソールには、SSHではなく、VMwareコンソールを使用してアクセスする必要があります。

Unified Manager 9.8以降、VMware ToolsはOpen VM Tools `open-vm-tools`）に置き換えられました。 `open-vm-tools`がUnified Managerのインストールパッケージに含まれているため、インストールの一部としてVMware Toolsをインストールする必要はなくなりました。

導入と初期セットアップが完了したら、クラスタを追加するかメンテナンス コンソールで追加のネットワーク設定を行ってから、Web UIにアクセスできます。

手順

1. "Unified Managerをダウンロード"の手順に従います。
2. さらに、"Unified Manager仮想アプライアンスをデプロイする" の手順に従ってください。

Active IQ Unified Manager インストールファイルのダウンロード

Unified Managerを仮想アプライアンスとして導入するには、Unified Managerインストール ファイルをNetAppサポート サイトからダウンロードします。

開始する前に

NetAppサポート サイトのログイン クレデンシャルが必要です。

インストールファイルは、ルート証明書を含む `.tar`ファイル、 `README`ファイル、および仮想アプライアンス用に構成されたUnified Managerソフトウェアを含む `OVA`ファイルです。

手順

1. NetAppサポート サイトにログインし、Unified Managerのダウンロード ページに移動します。

   "NetAppサポート サイト"

2. 必要なUnified Managerのバージョンを選択し、エンドユーザ ライセンス契約（EULA）に同意します。
3. VMware vSphere インストール用の `.tar`ファイルをダウンロードし、vSphere Client からアクセスできるローカルディレクトリまたはネットワークディレクトリに保存します。
4. チェックサムをチェックして、ソフトウェアが正しくダウンロードされたことを確認します。
5. `.tar`ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、ターミナルウィンドウで次のコマンドを入力してUnified Managerバンドルを展開します：

```
tar -xvzf ActiveIQUnifiedManager-<version>.tar.gz
```

必要な `OVA`ファイル、ルート証明書、およびUnified Manager用の `README`ファイルが、対象ディレクトリに解凍されます。

6. `OVA`ファイルの整合性を確認するには、 `README`ファイルに記載されている手順に従ってください。

Active IQ Unified Manager 仮想アプライアンスの導入

インストール ファイルをダウンロードしたら、Unified Managerを仮想アプライアンスとして導入します。ESXiサーバに仮想アプライアンスを導入するには、vSphere Web Clientを使用します。仮想アプライアンスを導入すると、仮想マシンが作成されます。

開始する前に

システム要件を確認しておく必要があります。Unified Manager仮想アプライアンスを導入する前に、必要な変更を行ってください。

"仮想インフラストラクチャの要件"を参照してください。

"VMwareソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。

動的ホスト構成プロトコル（DHCP）を使用する場合は、DHCPサーバが使用可能で、DHCPと仮想マシン（VM）のネットワーク アダプタが正しく構成されていることを確認します。デフォルトでは、DHCPを使用するように設定されています。

静的なネットワーク設定を使用する場合は、IPアドレスが同じサブネット内で重複していないこと、DNSサーバの適切なエントリが設定されていることを確認します。

仮想アプライアンスを導入する前に、次の情報を入手します。

- VMware vCenter ServerおよびvSphere Web Clientにアクセスするためのクレデンシャル
- Unified Manager仮想アプライアンスをデプロイするESXiサーバーのIPアドレス
- データセンターの詳細（使用可能なストレージ スペースなど）
- DHCPを使用しない場合は、接続先のネットワーク デバイスのIPv4またはIPv6アドレスを取得します。
  - ホストの完全修飾ドメイン名（FQDN）
  - ホストのIPアドレス
  - ネットワーク マスク
  - デフォルト ゲートウェイのIPアドレス
  - プライマリDNSとセカンダリDNSのアドレス
  - 検索ドメイン

Unified Manager 9.8以降、VMware ToolsはOpen VM Tools *`open-vm-tools`*）に置き換えられました。`*open-vm-tools*`がUnified Managerのインストールパッケージに含まれているため、インストールプロセスの一環としてVMware Toolsをインストールする必要はありません。

仮想アプライアンスを導入すると、HTTPSアクセス用に独自の自己署名証明書が生成されます。Unified ManagerのWeb UIにアクセスする際に、信頼されていない証明書に関するブラウザの警告が表示される場合があります。

Unified Manager仮想アプライアンスでは、VMware High Availabilityがサポートされます。

手順

1. vSphere Client で、「ファイル」>「OVF テンプレートのデプロイ」をクリックします。
2. Unified Manager仮想アプライアンスをデプロイするには、OVFテンプレートのデプロイウィザードを完了してください。

   [Review Details]ページで次の操作を行います。

   - 発行者セクションの詳細を確認してください。*Entrust Code Signing - OVCS2 (Trusted certificate)*というメッセージにより、ダウンロードした `OVA`ファイルの整合性が確認されます。+ *Entrust Code Signing - OVCS2 (Invalid certificate)*というメッセージが表示された場合は、VMware vCenter Serverを7.0U3E以降のバージョンにアップグレードしてください。

     [Customize Template]ページで次の操作を行います。

   - DHCPとIPv4アドレスを使用する場合は、すべてのフィールドを空白のままにします。
   - DHCPとIPv6アドレスを使用する場合は、「`Enable Auto IPv6 addressing`」のチェックボックスをオンにし、その他のフィールドはすべて空白のままにしてください。
   - 静的なネットワーク設定を使用する場合は、各フィールドに値を指定します。ここで指定した値が導入時に適用されます。導入先のホストで一意で、使用されておらず、有効なDNSエントリが割り当てられたIPアドレスを指定してください。
3. Unified Manager仮想アプライアンスをESXiサーバーにデプロイしたら、VMを右クリックして「Power On」を選択し、VMの電源をオンにします。

   リソースが十分でないために電源投入に失敗した場合は、リソースを追加してからインストールを再試行してください。

4. 「コンソール」タブをクリックします。

   初回のブート プロセスには数分かかります。

5. タイムゾーンを設定するには、VM Consoleウィンドウのプロンプトに従って、地理的な地域と都市または地域を入力してください。

   表示されるすべての日付情報は、管理対象デバイスのタイムゾーン設定に関係なく、Unified Manager に設定されているタイムゾーンを使用します。ストレージ システムと管理サーバで同じNTPサーバが設定されている場合、違う時間が表示された場合でも、それぞれが表しているのは同じ時刻です。たとえば、管理サーバとは異なるタイム ゾーンが設定されたデバイスでSnapshotコピーを作成した場合も、タイム スタンプは管理サーバの時刻になります。

6. 使用可能なDHCPサービスがない場合、または静的なネットワーク設定に誤りがある場合は、次のいずれかを実行します。

インターフェイス	操作
DHCP	「DHCPを再試行」を選択してください。DHCPを使用する場合は、正しく設定されていることを確認してください。 DHCPが有効になっているネットワークを使用している場合、FQDNとDNSサーバーのエントリは仮想アプライアンスに自動的に割り当てられます。DHCPがDNSと正しく構成されていない場合、ホスト名「`UnifiedManager`」は自動的に割り当てられ、セキュリティ証明書に関連付けられます。DHCP対応のネットワークをセットアップしていない場合は、ネットワーク設定の情報を手動で入力する必要があります。
静的なネットワーク設定	a. 「静的ネットワーク構成の詳細を入力」を選択します。 設定プロセスが完了するまでに数分かかります。 b. 入力した値を確認し、**Y** を選択してください。

7. プロンプトで、メンテナンスユーザー名を入力し、**Enter** をクリックします。

   メンテナンス ユーザの名前は、1文字目を小文字のアルファベット（a～z）、2文字目以降をハイフン（-）、a～z、0～9を任意に組み合わせて指定する必要があります。

8. プロンプトでパスワードを入力し、*Enter*をクリックします。

   VMコンソールには、Unified ManagerのWeb UIへのURLが表示されます。

ウェブ UI にアクセスして Unified Manager の初期設定を行うことができます。詳細については、"Active IQ Unified Managerの設定"を参照してください。

Unified Manager仮想アプライアンスのアップグレードワークフロー

Active IQ Unified Manager のアップグレード

Active IQ Unified Managerリリース9.14または9.16からリリース9.18へのアップグレードのみ可能です。

アップグレード プロセスの実行中は、Unified Managerを使用できなくなります。実行中の処理がある場合は、Unified Managerをアップグレードする前に完了しておいてください。

Unified ManagerをOnCommand Workflow Automationのインスタンスとペアにして使用している環境では、両方の製品のソフトウェアで新しいバージョンを利用できる場合、2つの製品間の接続を解除してから各製品をアップグレードし、アップグレードの実行後にWorkflow Automationの接続を新たにセットアップする必要があります。いずれかの製品のみをアップグレードする場合は、アップグレード後にWorkflow Automationにログインし、Unified Managerからデータを取得していることを確認します。

お使いのシステムがUnified Manager 9.7からアップグレードされている場合、Debianバージョンのファイルシステムの変更により、9.14から9.18へ直接アップグレードすることはできません。代わりに、推奨されるアップグレードパスに従ってください：9.14 → 9.16P2 → 9.18。

手順

1. "Unified ManagerのISOイメージをダウンロードする"の手順に従います。
2. さらに、"Unified Managerをアップグレードする"に記載されている手順に従ってください。

Active IQ Unified Manager のバージョンに対してサポートされているアップグレードパスを使用してください

Active IQ Unified Managerでサポートされるアップグレード パスはバージョンごとに異なります。

すべてのバージョンのUnified Managerで、新しいバージョンへのインプレース アップグレードを実行できるわけではありません。Unified Managerのアップグレードは、N-2モデルに限定されています。つまり、すべてのプラットフォームにおいて、次の2つのリリースへのアップグレードしか実行できないということです。例えば、Unified Manager 9.14および9.16からUnified Manager 9.18へのアップグレードのみ可能です。

サポート対象よりも前のバージョンを実行している場合は、Unified Managerインスタンスをサポート対象のいずれかのバージョンにアップグレードしてから、最新のバージョンにアップグレードする必要があります。

たとえば、現在Unified Manager 9.9がインストールされていて、Unified Manager 9.14にアップグレードする場合、アップグレード手順は次のようになります。

アップグレード パスの例：

1. 9.11から9.13にアップグレードします。
2. 9.13から9.14にアップグレードします。
3. 9.13から9.16にアップグレードします。
4. 9.14または9.16 → 9.18へのアップグレード

アップグレードパスマトリックスの詳細については、こちら "ナレッジベース（KB）記事"を参照してください。

Active IQ Unified Manager アップグレードファイルのダウンロード

Unified Managerをアップグレードする前に、Unified Managerアップグレード ファイルをNetAppサポート サイトからダウンロードします。

開始する前に

NetAppサポート サイトのログイン クレデンシャルが必要です。

手順

1. NetAppサポート サイトにログインします。

   "NetAppサポート サイト"

2. VMware vSphereでUnified Managerをアップグレードするためのダウンロード ページに移動します。
3. アップグレード用の `.iso`イメージをダウンロードし、ご利用のvSphere Clientからアクセス可能なローカルディレクトリまたはネットワークディレクトリに保存します。
4. チェックサムをチェックして、ソフトウェアが正しくダウンロードされたことを確認します。

Active IQ Unified Manager 仮想アプライアンスのアップグレード

Active IQ Unified Manager仮想アプライアンスは、リリース9.14または9.16から9.18にアップグレードできます。

開始する前に

以下を確認してください。

- アップグレード ファイル、ISOイメージをNetAppサポート サイトからダウンロードしておく必要があります。
- Unified Managerをアップグレードするシステムがシステムとソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

  "仮想インフラストラクチャの要件"を参照してください。

  "VMwareソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。
- vSphere 6.5以降を使用している場合は、VMware Remote Console（VMRC）をインストール済みであること。
- アップグレードの実行中に、パフォーマンス データの保持期間について、以前のデフォルト設定である13カ月のままにするか6カ月に変更するかを確認するプロンプトが表示されることがあります。変更を確認すると、6カ月を過ぎた過去のパフォーマンス データはパージされます。
- 次の情報を入手していること。
  - NetApp Support Site のログイン資格情報
  - VMware vCenter ServerおよびvSphere Web Clientにアクセスするためのクレデンシャル
  - Unified Managerメンテナンスユーザーの認証情報

アップグレード プロセスの実行中は、Unified Managerを使用できなくなります。実行中の処理がある場合は、Unified Managerをアップグレードする前に完了しておいてください。

Workflow AutomationとUnified Managerを連携させて使用している場合、Workflow Automationでホスト名を手動で更新する必要があります。

手順

1. vSphere Client で、「ホーム」>「インベントリ」>「VM とテンプレート」をクリックします。
2. Unified Manager仮想アプライアンスがインストールされている仮想マシン（VM）を選択します。
3. Unified Manager VM が実行されている場合は、「概要」>「コマンド」>「ゲストのシャットダウン」に移動します。
4. Unified Manager VMのバックアップ コピー（Snapshotやクローンなど）を作成して、アプリケーションと整合性のあるバックアップを作成します。

5. vSphere Clientで、Unified Manager VMの電源をオンにします。
6. VMware Remote Consoleを起動します。
7. 「CDROM」アイコンをクリックし、「Connect to Disk Image File (.iso)」を選択します。
8. `ActiveIQUnifiedManager-<version>-virtual-update.iso`ファイルを選択し、**Open** をクリックします。
9. 「コンソール」タブをクリックします。
10. Unified Managerメンテナンス コンソールにログインします。
11. メインメニューで、*アップグレード*を選択します。

    アップグレード プロセスの実行中はUnified Managerを使用できなくなり、完了後に再開されることを示すメッセージが表示されます。

12. タイプ `y`続けてください。

    仮想アプライアンスが配置されている仮想マシンをバックアップするように通知する警告が表示されます。

13. タイプ `y`続けてください。

    アップグレード プロセスが完了してUnified Managerサービスが再起動されるまでに数分かかることがあります。

14. いずれかのキーを押して次に進みます。

    メンテナンス コンソールから自動的にログアウトされます。

15. *オプション：*メンテナンスコンソールにログインし、Unified Managerのバージョンを確認します。

サポートされているWebブラウザの新しいウィンドウでWeb UIを起動し、アップグレード後のバージョンのUnified Managerにログインします。ただし、検出プロセスが完了まではUIでの作業を実行することはできません。

Active IQ Unified Manager 仮想マシンを再起動する

メンテナンスコンソールからUnified Manager仮想マシン（VM）を再起動できます。新しいセキュリティ証明書を生成した場合やVMで問題が発生した場合は、VMを再起動する必要があります。

開始する前に

- 仮想アプライアンスの電源をオンにする必要があります。
- Unified Managerメンテナンス コンソールにメンテナンス ユーザとしてログインする必要があります。

VMwareの*Restart Guest*オプションを使用して、vSphereから仮想マシンを再起動することもできます。次を参照してください "BroadcomのVMware vSphere PowerCLIコマンドレットリファレンスのRestart-VMGuestコマンドレット。"

手順

1. メンテナンスコンソールで、**System Configuration** > **Reboot Virtual Machine** を選択します。

2. ブラウザからUnified Manager Web UIを起動し、ログインします。

Active IQ Unified Manager の削除

Unified Managerをアンインストールするには、Unified Managerソフトウェアがインストールされている仮想マシン（VM）を削除します。

開始する前に

- VMware vCenter ServerおよびvSphere Web Clientにアクセスするためのクレデンシャルが必要です。
- Unified ManagerサーバからWorkflow Automationサーバへのアクティブな接続をすべて終了しておく必要があります。
- 仮想マシン（VM）を削除する前に、Unified Managerサーバからすべてのクラスタ（データ ソース）を削除しておく必要があります。

手順

1. Unified Managerメンテナンス コンソールを使用して、Unified Managerサーバから外部のデータ プロバイダへのアクティブな接続がないことを確認します。
2. vSphere Client で、「ホーム」>「インベントリ」>「VM とテンプレート」をクリックします。
3. 削除するVMを選択し、*概要*タブをクリックします。
4. VMが実行中の場合は、**Power** > **Shut Down Guest** をクリックします。
5. 削除するVMを右クリックし、*ディスクから削除*をクリックします。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。